

令和 6 年度

第 2 回松江市上下水道事業

経営計画推進委員会

議 事 内 容

(概 要)

令和6年度第2回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日時：令和7年3月27日（木）

- ・第1部 11:00 ～ 12:00
- ・第2部 13:00 ～ 14:30

2. 場所：松江市上下水道局 2階 大会議室

（第2部は、宍道湖流域東部浄化センターへ移動）

3. 出席者

- （1）出席委員 松本一郎委員長、大田美穂委員、利弘健委員、藤原睦己委員、浅田純作委員、片寄洋子委員、中村和可子委員
- （2）事務局 小塚豊上下水道局長、杉谷雄二部長、桂昭治技監、中西誠次長、古藤義弘次長、石津宏明総務課長、藤間新悟営業課長、吉岡勇治事業推進課長、田淵亮検査員、飯野利昭浄配水課長、橋本誠維持管理課長、新田恭周係長、赤山京一郎係長、尾添悟司主幹

4. 議 事

（1）報告事項

- 1. 令和7年度松江市上下水道事業会計予算概要について
- 2. 建設改良事業計画と財政推計について

◇委員会の内容（概要）

報告事項1及び2 令和7年度松江市上下水道事業会計予算概要について説明

○松本委員長 今、お二方からご説明をいただきました。これから質疑に移りたいと思います。予算、どこにどれだけ適正に支出しているか、計画がどうかというところが目玉になると思うのですが、私が言わせていただきたいのは有収率でしょうか。前年比と同じような形で、比較的高い数値、ほかの都市が80数%に対して、この数値は良いなということを感じています。

このほか、色々な改修や遠隔による費用とか、その辺りも気になると思いますが、他都市に比べたら大体適正かなと思っています。住み続けられるまちづくりに、インフラである水道事業はとても大事だと思いますし、そういう面では良いなと思いつつ、1人あたりに係る水道料金についてはどうなのかということもちょっと感じました。

それではみなさん自由にご質疑をよろしくお願いします。

浅田先生、お願いします。

○浅田委員

松江高専の浅田です。お世話になっております。

お話を聞くと「なるほどな」と理解できるのですが、なかなか物価が上がったりしていて、単価が上がって、実際にかかる費用が膨らんでいるというのは理解するのですが、数量的に見るとどういう状況なのかなというように思いました。

例えば、修理関係で計画的に修理していく修理費などは物価が上がって増えている。それとは別に、特に先ほどの埼玉の道路の陥没の例などではないですが、突発的に起きた計画とは別の緊急的な修繕、予期せぬ修理が必要なものの実際の数値的なものなどはどういう状況なのでしょう。その辺りについて教えてください。よろしくお願いします。

○中西次長

経営課長の中西でございます。

浅田委員がおっしゃるとおり、物価高騰等により、1つずつの修繕の単価等々は上がっております。特に松江市は水道・下水道ともたくさんのポンプや施設・機械類を抱えておりますので、計画的に修繕・更新は予算計上を毎年やっているとございますけれども、いわゆる予期せぬ修繕もありますので、そこは枠的な形で予算計上しております。しかしその単価も上がっているの、予算計上は増額しております。

また、漏水修繕の件数はそこまで大きくは変わってはおりません。計画的な更新もやっておりますし、漏水の恐れがあるところは漏水調査等々で事前に発見するといったこともやっておりますので件数は大きく変動はしてませんが、修繕単価は上がっておりますので、ここ数年間の全体の漏水修繕の金額はどうしても少し上昇傾向にあります。

○浅田委員

そうすると、大体推測どおりに経過年数に応じた損傷具合が見られているところでしょうかね。

○小塚局長

おっしゃるとおりでして、先ほど経年化率も上がっていったという話がありましたが、年間の水道の漏水件数というのが500件程度、これはほぼ横ばいの状況です。

それは1つには給水管といって、本管からご家庭に水を送る管というのがあるのですが、基本的にはそれを全戸調査をしています。それで漏水を発見しているということですから、年度によって件数が大きく違いがない1つの要因にはなっているということです。

ただ、最近特徴的に言えるのが、昭和40年代から50年代のビニール管が大きく損傷して、本管が漏水をして水が噴き出しているという現象が非常に多くなってきているということです。

やはりその当時の技術的な問題とか、要は水道管を敷くその下の土壌・土質の問題、建設ガラをそこに置いていて損傷しやすいとか、あるいは海砂を使ったコンクリートがあるなど様々な問題があるため、その辺りが今後顕在化をし

ていくのではないかと危惧しております。そういった老朽管対策は、例えば土壌の問題とか、危険度のマトリックスをつくってできるだけ危険度の高い順番に路線を決めながら計画的な修繕の中に組み込む必要があるのではないかとということで、現在検討中という状況でございます。

○浅田委員

先ほど報告の中の写真で、橋梁のところを通っている水道管で海沿いの地域だったりすると、橋梁だとよく対候性橋梁ということでサビなどを見たりするのですけれども、実際、飛来塩分の状況などが良く分かっていない状態で予測どおりに損傷していくかといったらそうではなかったりしているので、先ほどの多分そういうものだと思います。

そして、地下水が汽水だったりなど地下水の状況や、乾燥したり水没したりといったことで傷みも早くなったりするので、最近の気候変動ではないですけれども、その辺りの影響もある中で予定どおりで良いのかなという確認で質問させていただきました。

以上です。ありがとうございます。

○小塚局長

先生がおっしゃるように非常に難しい問題だと思っています。和歌山で水管橋が落ちて、それで何万戸も1週間とか断水の状況が続いたということもあって、松江市では水管橋の緊急点検もやっております。

管そのものが腐食に強い管であっても支えている継ぎ部分が鉄であれば当然劣化をしていきますので、それは今、5年に一度必ず点検しております。以前はそれがなかったものですから、今はそれが予防修繕的なところで効果を果たすのではないかと考えているところです。

それから、先ほど建設改良主要事業の説明で「中央ループ行き」という言葉が出てきました。「中央ループとは何だ」とみなさん思われたと思うのですけれども、松江市というのは竹矢のポンプ場から来る飯梨川水系の水と、それから尾原ダムから来る宍道湖の下を通過して橋北のほうに回ってくる水と、それから忌部の自己水源という大きな3つの水源を抱えております。そこを上手に利用して水の運用ができる部分もあり、そこを中央ループと言っております。そこに向けての耐震化を今進めているところで、1つのところがダメでも、ほかのところから水が供給できるような危機管理上の取り扱いもしているということとを併せてご承知おきをいただければと思っております。

○松本委員長

ほかの委員のみなさん、いかがでしょうか。

1点だけ、私からよいでしょうか。いよいよ令和7年からマイナスになり内部留保を食いつぶして運用していくのですが、令和11年からいよいよ本格的に厳しくなるという中で、この予算で本当に大丈夫なのかというのが率直な市民の意見だと思います。

例えば緊急点検の話もあったのですが、あれは国から補助などはないので非常に苦しい話ですね。

緊急点検の通知があった時も、松江市は日ごろからすべきことは費用をかけて行っているので大丈夫だと思っています。そういったところが1人あたりの水道料金に転嫁されていると思うのでその辺りの市民への説明が必要だなと思います。

それから、令和11年以降のことについて前回もお聞きしたと思うのですが、もう一度お話しいただければと思います。要するに、赤字になっているけれど、本当に良いのかというところです。お願いします。

○小塚局長

お答えが真っ直ぐになっているかは分かりませんが、そのために1つは料金改定のお願いをさせていただいております。料金改定のお願いというのは、料金の計算の期間というのを向こう5年間、令和8・9・10・11・12年の全体の収支の予測を立てまして、それに対して「どれだけ足りないから、これだけ料金改定をさせてください」という説明をしております。

それを原価計算と申しますが、何の商売をするにしても原価を計算しますので馴染みのある言葉だとは思いますが、そこをきちんとやっていくということです。収益的収支というのはご家庭でいうと財布の中の勘定だと思っていただければと思っております。例えば住宅ローンや何かのローンとか、車をキャッシュで買うのか、あるいはローンで買うのかというようなことです。我々としては、できるだけローンは少なくしながら、将来人口が減ってまいりますので、できるだけ1人頭の借金を増やさない方向でやっていきたい。要は将来に禍根を残さず、孫子の代に借金のツケ回しをしないようにと思っています。

今回平均26%上げれば令和12年までは大丈夫だろうということと、その先向こう10年は内部留保資金を20億円から25億円程度は確保しながら、企業債残高は将来の借金の額を減らしていけるギリギリの線で成り立っていると試算しています。

ただそれは向こう5年間だけの問題ですので、今の料金の審議の中では、やはり世代間負担というのを公平な形で期していかなければいけません。ずっと安いままにして急に上げるのではなくて、やはり何年かごとに必ず料金の見直しをすることが必要だと考えています。値上げの局面ばかりで、値下げの局面というのはほぼ考えられないと思われますけれども、そういったところできちんとできるだけ平準化をしながら、上げるなら上げるということをしていかなければいけないと思っております。

その中で、技術革新といったことによりもしかしたらマイナスの局面も出てくるのではないかと考えていますけれども、非常に右肩上がりのときに作ってきた大きなインフラ網でございますので、将来に向かってインフラの管理そのものをこのまま維持しようと思えば非常に無理があると思っております。

様々な効率化を図りながらこれまで多くの施設を廃止してきましたけれども、もっと廃止する施設がないのか。松江というのは山が多いので、一度ポンプで水を上に上げて、そこからまた落とし直すという作業がたくさんあります。先ほどの矢田配水池もそうなのですから、竹矢の平たいところにポンプ場が

あって、飯梨川から来た水をそこでポンプアップをして矢田の配水池に上げたり、大橋川の下を通して朝酌の配水池までもっていったりしておりますが、今後施設を更新するときに、廃止できる施設はないのかということはかなり細かく、県とも一緒になって工夫が凝らせないか検討しています。

松江市は鳥取や米子に比べると大体 3 割ぐらい職員数が少ない状況です。出雲は若干うちよりも規模が小さいですけれども、上下水道全体としてとしては出雲とほぼ同じぐらいの職員数でやっておりまして、いわゆる危機管理の観点からこれ以上の職員の減員というのは緊急時の対応が非常に難しくなるのではないかと考えております。現在、忌部浄水場の水質管理は自前でやっている部分と環境保健公社に委託してやっている部分と両方あるのですけれども、環境保健公社というのはきちんとした水質管理の認証機関であり精度管理がきちんとしている機関ですので、今後は基本的にはすべてそこにお任せをしようとしています。24 時間 365 日対応していただけますので、官民の役割をきちんとした中で、水をどうやって作っていくのか。水の安全性というのは専門家にお任せををするとして、例えば濾過閉塞といって、水がなかなか作れない状況をどうやって回避するのかとか、そういったことに例えば島根大学の生物資源さんと一緒になってできないかとか、そういうことは検討しております。できる努力は不断にやっていきますし、また、先生方からのご意見があれば、取り込めるものは取り込んで、コストを 1 円でも安くするという努力はこれからもやっていきたいというように考えております。

○松本委員長 局長がおっしゃるとおりだと思っています。大事なことは、やはり「何で米子と比べて」となると思うので、局長のお話にあったように、水理学的に橋を越えなくてはいけないとか、山がたくさんあるから施設がたくさん必要だといった事情を丁寧に説明していくということと、しっかりと事業をやっているということを説明していただくと、我々市民目線というか、それぞれの立場でここに意義があるかなと思っていますのでよろしくお願いします。

ほかの委員のみなさん、いかがでしょうか。

中村委員、お願いします。

○中村委員 各委員の先生方からのご質問やご指摘に通じるものなのですが、普段相当色々なご努力をいただいて計画しておられるのですが、確かに天災といいますか、気候の変動で思いもよらぬことが起こっていくのと、あと、原価が高騰していくということは容易に推測ができるので、この予定をもっと早いスパンでまた見直すことも必要かなと思いつつ、私たち市民にできることは何だろうというところですね。

微々たるものかもしれないのですが、かといって家庭のほうから見ると、水をじゃぶじゃぶ使うというのは家計に影響があるのでできないのですが、何かしら市民ができることがあれば教えていただきたい。

もう 1 つは、経営計画推進委員会と付けられた資料の中で、給水人口 1 人あ

たりの受水費というのが、松江市が県から購入をしているということで増えているのですけれども、すいません、正確な呼び名を忘れてしまったのですけれども、全県 1 つに水道局をまとめるという構想があると思うのですが、そうしたときに県から買うということがまた必要になるのか、「それは自前だよ」ということでこの辺りの費用が軽減されるかというところはいかがでしょうか。

○中西次長

中村委員さんが言われる、市民のみなさんに何かできることはないかと。推計していく中で本当に具体的なものがパッと思い付かないというのが現実なのですけれども、やはりご理解をいただくことが非常に大事な事かなと思っています。上下水道局職員一丸となって、可能な場で市民のみなさんにこういった事業のことを説明させていただければと思っています。その上でご理解をいただいて、一緒に水道事業・下水道事業、この資産を将来にわたって維持していくと思っていただければと思っています。

○小塚局長

市民のみなさんにできること。1 つは防災意識を高めていただくこと。これは収支に直接影響はないと思いますけれども、そういったことを我々も情報発信をきちんとやっていかなければいけません。

どこに給水ステーションという、車で水を汲みに行けるところがあるとか、防災拠点は耐震化をしていますので、恐らくそこに行けば大丈夫だろうとか、そういったことを我々も情報発信いたしますが、それをきちんとご理解いただくということをお願いするということ。

それから、下水道においてはやはり適正使用をしていただくこと。下水道に流してはいけないもの、野菜カスとか、そういうものはみなさん取っていると思うのですけれども、よくあるのが、マンホールポンプのところにおむつが挟まっていたりとか、下着類が流れていたりと、色々あってはならないものがいっぱいあるのです。それが故障の原因になりますので、適正に使用をしていただくとその故障を修理するコストが少しでも安くなるということもあります。

私、平成 20 年から 23 年まで市役所で下水道の業務課長をやっていたのですけれども、そのときにも料金を上げさせていただきました。そのときには「農業集落排水の処理場にこんなにたくさんごみが詰まっていますよ」というような写真をお示しするというようなことをやっていました。そのほか飲食店においては、油を取るオイルキャッチャーとかグリースのキャッチャーとか、そういうものがあるのですけれども、それがきちんと使われないと油がそのまま流れてしまって管が詰まっていきます。

それから今回の八潮市の事件もそうなのですけれども、要因の 1 つではないかと言われているのが強酸性の透析の洗浄液です。本来ですとそれを中和して排水する「除害施設」を設置しなければなりません、それが適正に使用されているかどうかというようなことを今回市立病院や日赤、それから生協病院に入らせていただいて調査しました。そういったことの適正使用を心掛けていた

だくと管も長持ちいたしますし、余計なコストをかけなくても済むということです。これは大事なキャンペーンだと思っておりまして、ちょうど良いご意見をいただきましたのでもう一度改めてそういったキャンペーンもしていきたいと思っております。

○中西次長

受水費の件で全県 1 本の水道事業というところでございますけれども、現在 19 の市町村がそれぞれ水道事業を営営していますのと、あと、島根県が用水供給事業、斐川と宍道が企業団という形で 21 の水道事業がございます。今、県が進めようとしているのは経営の一体化と言われる、要はそれぞれが今までどおりの経営をしたまま、企業団という 1 つの組織の中で別々の料金をもってやっていこうというところなので、今のままですとこの受水費という関係は変わりません。

ただ、将来的に事業統合という、すべてを一緒にするという流れになると、1 人あたりの受水費というよりも、1 つの水道事業の中にかかる経費という形になりますが、ただ、何が変わるかというは何も変わりません。

松江市の場合は、100km も離れた遠い水源から水をひいていますので、受水費でなくてもやはりかかる経費というのはある程度他の都市よりも高くなるということです。

ただ、事業統合ということになれば、内部管理のことなど二重にかかっている経費はかなり削減ができるのではないかとということで、広域化は積極的に推進の方向で検討していかなければいけないのかなと思っております。

○中村委員

非常に良いことも教えていただいたというか、私は以前、松江市の「エコタウン松江」という松江市の広報紙で環境新聞記者というのをやっていました。今思い出したのですけれども、「市民がごみをこれだけ削減したら、税金がこれだけ減りますよ」というのを「エコタウン松江」に載せて、市民の方にも自分たちの努力がいくら削減になったという喜びに変わるような仕掛けをしていたので、それも 1 つできるのかなと思いました。受水費についてもありがとうございます。

○松本委員長

エコタウン松江、残念ながら今はなくなってしまいましたからね。

局長が言われたように、市民にできることというのは正しく下水道を使用することですよね。ティッシュペーパーやウェットティッシュなど、いろいろなものが水に流せるといって販売されていますけれども、あれは実はそんなに溶けないのです。ですから、そういうものは下水道に流すことはできるけれども、極力捨ててくださいというようなアドバイスとか、それは例の 1 つですけども、そういうことが必要かなと思いました。ありがとうございました。

○中村委員

そうすると先生、もう 1 つあれですよ。確かに汚水ですかね。下水に流れていくもので、私たちの生活はどんどん便利になっていって、でも例えば整髪

剤とか、成分が人間には良いかもしれないけれども自然には良くないものも出てきているのかなと思っています。ですから選択してそれを買うときに、より自然に優しいものを選ぶとか、そういうことを0よりかは1人がやっていくようなこともとても大事なことになるのかなと思いましたが、そういった情報ですよね。製品としては水に流して良い。例えばペットのトイレの砂も水に流せるとか書いてあるのですけれども、実はそれは非常に負荷がかかっている、下水処理に多大な費用がかかっているみたいなことが分かれば、私たちも選択して買うときにちょっと立ち止まることもできるので、製品としては良いのけれども、松江の下水道の環境に対してどうなのかというところも発信のしどころかなというのは思いました。

○松本委員長 ビーカーの中にトイレトーパーを入れてクルクルと溶かす実験がありますよね。あれで溶ける紙というのは、やって流すと本当に良く分かるかなと思いました。ありがとうございます。

時間が過ぎているので、すみません、今のことに対してお一人ずつ何か感想でも良いですし、何か述べていただけますか。

それでは片寄委員、思いをお願いします。

○片寄委員 10ヵ年計画のところを見せていただいて、ご説明もいただいたのですが、人件費が減っているのは委託費になっているのかなとか、そうやって1年ずつを見ていました。20%の料金改定を行うと令和8年度にこの赤字が出ないということで理解してよろしいですかね。

今、物価も毎年毎年上がっていて、家具業界とか建築業界も半年ごとに上がるような状況なので、料金が上がるのは仕方がないよねと思われると思います。そしてあのような事故もありましたので、市民の皆様の関心がとても高い時期だと思いますから、今年度アップしても本当におかしくないことだと思います。でも徐々に徐々にというか、1年にバンと20%上げるのではなくて、10%ずつ毎年上げていくとか、そういう上げ方の工夫とかというのも、もちろん理解を得ることだと思いますけれども、ちょうど良い機会ではないかなと思っている昨今でございます。

ベトナムから一昨日帰ってきたのですが、本当に日本は幸せな国だなと感じています。日本でも流してはいけないものは流してはいけないのですが、水洗トイレはあるし、ベトナムは川も本当にまだまだ汚い状況。まちもごみがいっぱいですし、日本に生まれて良かったと思った今日このごろでございます。

○松本委員長 ありがとうございます。それでは、藤原委員。

○藤原委員 失礼いたします。委員の藤原です。

今日のお話は財政推計であるとか、今後の料金改定状況というお話でした。

これからも住み続けられる松江であるためには、局長さんのお話にもあったとおり、負担の世代間公平というところが大切だと思いました。これから何十年も人が住み続けていくとなったときに、山がたくさんあって川があってというような起伏のある環境でも安心して使える上下水道を、どうやって維持していくかというのがすごく難しいと改めて感じたところです。一方で、そのような中でも料金改定であるとか、計画的な管路の更新をしていくと、まだまだ維持できるということについては、上下水道局のみなさんのたゆまぬ努力の下で、こうして毎日安心な水道が使えるんだなというところに感謝しています。

これからのことですので、これからを担う若い世代がより考えていかなければならない問題であるのと同時に、中村委員がおっしゃられたような大々的なキャンペーンというところで、適正利用を1人ずつでも考えていきたいなというように思いました。ありがとうございました。

○松本委員長 今の藤原委員の言葉をそのまま載せたいぐらいですね。私はそちらの立場ではありませんが、本当に理解というか、本当にありがたい言葉だと感じています。やはり情報発信と価値観の共有、水道料金が何で高いかということを理解されると、上下水道局が水道をしっかり守ってくれているとわかります。では利弘委員、お願いします。

○利弘委員 私、立場的にネガティブなことも多少言わないといけないと思うのですが、だいぶ端折って書いてあるので今日の資料ではなかなか分かりにくいところもあり、資料間の関連性というのはトレースは難しいですが、以前の会議とかでも細かく説明していただいているので。

それから、料金改定をされると、今これを見るとすごくびっくりするような財政状態で、本当に大丈夫かということにはなるのですが、料金改定をすれば大丈夫だということは以前にもご説明をいただいているので、特段の問題はないだろうと思っています。

今の藤原委員さんと被るかもしれませんが、今の料金改定などをすれば安定的に経営がある程度はできるというラインまでもっていけると思うのですが、一方で26%という価格の改定で、ほかの都市と比べてそこまで高くはないようにも思えます。ただ、上がった結果、全国的に見ても結構高い水準になってしまうというデータもあるわけですね。

そこだけ見ると、やはり市民の方々も驚かれる部分は当然あるわけで、そこに対してしっかりと説明していくことはやはり必要だと思います。例えば、「このままいくとこうなってしまうけど、ここまで上げればこういう安定的な経営ができる、安心して水が使える状況になる」ということとか、あるいは松江市の今の地形の問題とか、そういうこともあると思います。その辺りは、やはりしっかり分かりやすい情報提供が絶対必要なのではないかなと思っています。

それから、もう1つは、ちょっとこういう発想があっても良いのかどうか分か

らないのですけれども、今の松江市の有収率はすごく高いということがあって、これは作った水のうち料金が取れる水の率ですよね。最初は貸し倒れになっているのかと思ったのですが、そこではなくて、作った水が効率的に料金が取れる水道として使われるということ、その率ということですね。それが全国的に見ても5%ぐらい高いということなので、これはすごく良いと思います。

これは、例えば松江市よりももっと高い都市というのもあるのですか。東京都がそうなのですか。

○中西次長

東京都は、道路から家の中に引き込むところを全部ステンレスの管にするというのを数十億、もっとお金をかけてやっています。給水工事でステンレスを使うようにということで指導までしてやっている関係で、すごく高い有収率を誇っておられます。

ただ、ステンレスはそこだけで、あとは松江同様にお客様のご希望によるビニール管等を使って中に引き込んでいるというところですよ。

○利弘委員

なるほど。ひょっとしたらニーズと逆行するような発想かもしれないのですが、料金の高さを抑えるために有収率を下げるという、そういうシミュレーションというのはされた上でのことなのではないでしょうか。ちょっと変な話なのですが、例えば企業でいうと、品質を上げるためにコストをいくらまで上げるかというのはあると思います。

ここままで抑えたほうが、例えばコスト的には効率的だよという発想というのは、通常の経営的な感覚でいうと、どこまで、というのがあると思います。すごく優秀な率なので、技術的にも多分素晴らしいのでしょうし、そういうところを下げるという発想というのは、それで料金が例えば下がるのなら、その辺りがコストにどうチャージされるかというのは分からないのですけれども、その辺り、そういうシミュレーションというのもしられているのかどうかというところをお聞きしたいです。

○松本委員長

先に話すと、有収率というのは高いほど無駄なく水道を供給できているということになりますので、それを意図的に逆行させる、技術的に落とすというのはどうかと。それでコストが落ちてくれるといいかもしれませんが。

○小塚局長

正直、そのシミュレーションはしていません。料金審議会の中で、我々としてはこういう計画で、きちんと老朽管の修繕や耐震化を進めさせてくださいと申し上げておまして、そこで値切れと言われたらば、その計画自体を下ろしていくしかない、落としていくしかないというような気持ちで料金審議会に臨んだのは確かです。

ただ、有収率を落とすことイコール漏水が増えることです。漏水が増えると、単に有収率云々だけではなくて、漏水に起因する道路陥没事故とか、様々なネガティブな事故や事象が想定できます。そこまで考えたときに、我々水道事業

体は危機管理を生業としておりますので、それは上下水道局だけではなく松江市内の上下水道に関わる事業者すべての問題になるわけでございます。そういったことも含め、やはりある程度力を持って緊急の事態に備えていかないといけません。以上のことを含めて考えたときに、うちは大体管路の 1%、100 年で 1 回入れ替わるような計画を目標にしてやっているのですけれども、そういった部分も含めて成り立った計画であり料金改定だということをご理解いただけたらと思います。この資料だけでは全く分からない部分もございますので、すごく良いご指摘ありがとうございます。

○利弘委員

私、物流というか、水道を運ぶこともひょっとしたらその効率の中に入っているのかなと思っています。水をポンプで高いところに上げたり下げたりしなければならぬという、どちらかという松江市はハンディキャップを負っている都市かもしれないという中で、この有収率の高さを維持しているというところにすごいなと思う一方、そのコスト感覚、それを維持するコストはどのぐらいかかっているのかなということも思ったところでした。有収率を下げてほしいとは思っていないのですけれども、その辺りのコスト感というのが気になっていまして、そのコストがかかっているから料金が高い。この有収率というのはすごく高いのかというところの実態をお聞きしたかったところでした。

○中西次長

年間 8 万戸の全世帯を見て聞いて回る漏水調査ですが、一部、漏水の危険のある管路についてもやっているのですけれども、これが今まで毎年 2,000 万円ぐらいで行っておりました。

それをシミュレーションではないのですけれども、そのコストを考えて一時 1 年やめたときもありました。そうしたときに、やはり数%有収率が一気に落ちまして、その 2,000 万円ぐらいの委託料と、その危険性も含めたところを考えますと、やはり漏水調査はしっかりやっていかなければいけないかなと思っています。

委託料が 7 年度はかなり上がっているのも現実ですけれども、漏水調査は必要だと考えております。

それから、老朽管の更新。これも全部を一遍にやることはできないですけれども、計画的にやっていきたいと考えております。

○利弘委員

そうすると、大体そういうシミュレーションというのを簡便的というか、された上で維持されていくということですね。ありがとうございます。

○松本委員長

私も勉強になりました。ありがとうございました。大田委員、お願いします。

○大田委員

時間が迫っているということで、簡単にですが。つい先日、私ごとですが、家の水回りがちょっとトラブルを起こしまして、3 日くらい普通どおりに水道を使える生活ができなかった時がありました。エコキュートなのでお湯が止ま

って、水がちょっとちょろちょろとなってしまうて。

それだけでもすごく家族全員ストレスで、大変な日々でした。ですから、改めて水道・水周りというのは、文化的にも精神的にも心も支えるものだと思います、それを日々24 時間 365 日滞りなく届けていただいている皆様に感謝というところが1 つでした。

そして、このように当たり前に出てくる水道というのがこれだけ様々な、松江というのは水の都なのに水源が乏しくて、こんなにボコボコしているから地形的にリスクがある、コストがかかるというのを知らなかったのも、それをこの 10 ヶ年計画の中で、みんな市民一人ひとりが私ごと化というか、自分ごと化、理解していただくような何か取り組みがあると、より嬉しいなと感じました。

色々教えていただいてありがとうございました。

○松本委員長 委員の皆さん、本当に貴重なご意見ありがとうございました。これを生かして、市民の理解につなげていただきたいと思います。

すいません、時間をオーバーしましたが、事務局のほうに戻します。

○中西次長 ありがとうございました。

この委員会でございますけれども、実は令和 5 年度、6 年度の 2 ヶ年を委員の皆様の任期としております。今回が、この 2 年間の最後の委員会となります。本当にどうもありがとうございました。

この 2 年間、上下水道事業の経営計画に対して様々な色々なご貴重なご意見、ご助言をいただき、上下水道局といたしましては、皆様方に来年度以降のこの経営計画につきましてもご助言をいただきたいと思いますと考えているところでございます。委員の継続につきまして皆様にご相談をさせていただきたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いをいたします。

○松本委員長 委員長の私からも、委員のみなさん、ぜひ引き続きお願いしたいと思います。ご事情もあろうかと思いますが、事務局と相談してもらって、ぜひ次年度もお願いしたいと思います。すいません、言い忘れました。

○中西次長 それでは、議事終了いたしましたので、これで一旦の閉会とさせていただきます。

松本委員長様、ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、活発なご発言ありがとうございました。

視察にご参加の方は正面玄関に車をご用意いたします。12 時 45 分から 50 分ぐらいに出発したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。